

*: . ° ☆。 , : * : . ★。 , : * : . ° ☆。 , : * : . ° 。 , : * : . ° ☆。 , : * : . ★。 , : * : . °



みらいっうしん

1月号

2020年1月10日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子



, : * : . ★。 , : * : . ° ☆。 , : * : . ° 。 , : * : . ° ☆。 , : * : . ★。 , : * : . °

新年あけましておめでとうございます

2020年を迎え、令和初めてのお正月は、天候にも恵まれ穏やかな日となりました。皆様が健康で幸せな1年となりますよう心からお祈りいたします。

私たち職員一同も、今まで以上に園児一人一人に心を配り、より良い保育と教育ができるよう努力して参ります。どうぞ本年もよろしくお祈りいたします。

さて、子ども達の様子を見ると、寒さの中でも、元気に遊びに夢中になっています。より一層の意欲が生まれているようで、遊びの中にも、目標や工夫、そして、友達とのやり取りから信頼や思いやりも芽生えています。昨年の12月に行われた開園10周年記念講演で、田園調布学園大学の内藤知美先生もおっしゃっていましたが、乳幼児期の遊びは、子ども達が遊びにひたむきに取り組むことによって、失敗や成功を繰り返し、新しい発見や物事に向き合う姿勢、友達との絆など、生きる力を身につけていきます。保育の場では、その大切な瞬間に大人がどれだけ関わり、個人を認め共感することによって、子どもは心を開き、人として大きく成長していきます。みらいこども園は、この部分をとても大切に考え日々保育と教育を行っています。

仏教の言葉にも『和顔愛語』というものがあります。「人は、感情によって怖い顔になって相手を理解しないまま傷つける言葉を言ってしまいが、その時の顔と言葉はとても見苦しいものである。心を落ち着かせ、相手に話すときは、お穏やかな表情で優しい言葉で話しかけることが大切である。お互いを慈しむことが出来れば、争いや苦しみは自ずと生まれない。」という教えです。敏感な子ども達に携わる大人こそ、この言葉は必要で、人間形成の上で教訓にしていかななくてはいけないと感じています。又、最近のスポーツ界に話題を転じてみると、令和初の箱根駅伝において、青山学院大学が、2年ぶりに総合優勝を果たしました。レース前の予想では、5強の大学が混戦するという見解でしたが、原監督が、選手一人一人に、「いいぞ！お前はすごい!!」と褒めて激励し続けていくと、選手達は、予想以上に力を発揮し、後続のチームに影さえ踏ませない快走を見せ、新記録でゴールすることが出来ました。この優勝は、昨年、常勝チームが、まさかの負けを経験し悔しい思いをしたことにより走ることへの向き合い方と何が足りなかったのかを学んだこと、さらに選手を信じる監督の「言葉の力」の賜物と痛感しました。そして、個人を認め、共感するという保育界にも共通点があると目から鱗(うろこ)が落ちた思いでした。

人は、様々な経験や体験の中で失敗や落ち込んだ時にどう立ち直っていくかで、人生は変わってきます。よき理解者がそばにいること、立ち直る力を身に着けることが、とても大事だと感じます。私たち職員は、子ども達と共に生活しながらお互いを尊重し、共に学んでいきたいと思っております。どうぞ、今後ご理解とご協力をお願いいたします。

